

(様式3)

自己評価結果票 (洋風ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>当ホームの運営理念は以下のとおりです。 1 入居者の幸せと家族の安心のため最善を尽くす。 2 入居者の生活の質の向上とノーマライゼーションの実現に努める。 地域の福祉に貢献する。 ホーム内に理念を掲示し、入居者とその家族にも説明している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念の意義を共有するため、毎朝、朝礼で「運営理念」と「職員心得」を唱和し、理念の実践に向けて取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議や家族会等の場を利用して、ホームの運営理念について理解を深めてもらえるよう努めている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>毎日、午前と午後に近くの神社やホーム周辺を散歩することを日課にしている。買い物は交代で毎日出かけている。月1回は近くの喫茶店に出かけている。毎月、保育所で園児との交流会があるので、参加している。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>運営推進会議のメンバーとして自治会の会長も入り、当ホームの運営に意見を頂いている。また自治会の掃除の日には職員とともに参加し、祭りなどの自治会あげでの行事にも参加し、地元の人々と交流することにより、グループホームを存在を理解してもらえるように努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		職員会議において、自己評価の意義や目的を説明し、全職員に意見を求め、それを集約して、自己評価表を作成する。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		次回の運営推進介護より、地域包括支援センター職員に会議への参加を依頼する。
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族との信頼関係を築くため、馴染みの職員が異動・離職した場合、残った職員が利用者へのダメージを最小限となるよう最善の努力を行っている。また、採用時には、認知症の基礎知識についてレクチャーを行うことにより、ケアの底上げを図っている。		
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	兵庫県家庭介護・リハビリ研修センターの主催する認知症介護実践研修(実践者研修)を定期的に受講している。受講者は、職員会議時に、伝達講習を行い、研修情報は職員で共有できるようにしている。また、感染症や防災、緊急時対応などについての研修を職員会議の場で行っている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姫路市グループホーム協会の主催する研修会に参加し、同業者と交流する機会を通じてサービスの交流に努めている。のている。また利用者の迷惑にならないよう配慮しながら、同業者の研修を受け入れ、お互いのサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員は利用者の自立支援に積極的に取り組んでおり、当ホームでは要介護状態区分では軽度認定者が多数を占めている。またそのことが、結果的に職員のストレスを軽減させることにつながっていると考えている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員は、日々の朝礼時に運営理念や職員心得などにより組織の規律を学び、日々の申し送り時に利用者の生活状況等を記録・確認し、毎月の職員会議時には利用者のケアプランの作成・見直し・変更を行い、常に向上心を持って働けるよう努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居による環境変化に伴う不安を少しでも軽減させるよう、利用者にとって居心地のよい場所になるよう、全職員が協力して、利用者の困っていること、不安なこと、求めていること等を受けとめる努力をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時に、家族に利用者の過去の生活歴等を聴取し、家族が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴き、受けとめる努力をしている。また、運営理念を説明することで、当ホームのことを理解してもらえるように努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居時には、まず必要としている支援を当ホームで作成したアセスメントシートで見極め、ケアプランを作成し、サービスを提供している。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者にとってホームが居心地のよい場所となるよう、利用者や家族等と相談しながら、ホームに馴染めるようケアを実践している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者とともに生活するという意識を持ち、一緒に家事(買い物、調理、洗濯、掃除等)や散歩やレクリエーション等を行いながら、喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族との食事会を年2回開催して家族の要望引き出しに努めるとともに、ホームや利用者の情報等を出し合っている。また職員は家族と共に利用者の幸せを願い、家族に利用者の日常生活について報告・連絡・相談し、家族の協力を仰ぎながら利用者を支えている。		
29	利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時に、利用者との家族の関係について聴取し、職員間でその情報を共有し、その関係を継続し、よりよい関係が構築できるよう支援に努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が希望する馴染みの人や場所との関係の継続ができるよう、家族の協力を仰ぎながら支援に努めている。一度訪問された人が二度三度と訪問される場合も多く、交流の時間は増えている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、楽しく生活できるよう、食卓での並びを工夫したり、当ホームで実施しているレクリエーション等のプログラムに積極的に参加することにより、利用者の相互交流を図っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者が退居した後でも、積極的に家族の相談に乗るよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>現在は管理者への利用者や家族からの要望はほとんどない。利用者に対しては、日々の実践から希望や意向をくみ取るように努めている。また、家族に対しては、面会や面談等を利用して、希望等を聞くようにしている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に、利用者の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等を利用者や家族より聴取し、当ホームで作成したアセスメントシートで実施している。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入居から数週間で、利用者一人ひとりの一日の過ごし方、心身の状態、残存能力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月実施するケアプラン会議において、利用者毎に主担当職員を決め、利用者がよりよく過ごせるための課題とケアのあり方について関係者全員の意見やアイデアを集約して、介護計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは毎月実施している。また見直し以前に新たな変化が生じた場合は、関係者と話し合い、介護計画を作成している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日報・生活記録に、日々の出来事、利用者の様子、体調、バイタル等を記録し、情報を共有している。また日々の記録を根拠にしながら、毎月の介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や地域の方の要望に応じていくために、グループホーム、ふれ愛ホームの利用者、地域の方やボランティアなどの交流会を通して舞踊教室・演芸・カラオケなど、当ホームがもっている機能を提供している。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者や家族等の意向や必要性に応じて、ボランティア、民生委員、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅介護支援事業所や地域包括支援センターの問い合わせや訪問時には、情報交換等の連携を図っている。また利用者や家族等の意向や必要性に応じて、介護相談室「ひだまり」の開設により、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者との交流の機会も増え、他のサービスを利用するための支援をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者や家族等の意向や必要性があれば、介護相談室の開設に伴い、地域包括支援センターに協力を仰ぎながら支援できる体制が強化された。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの協力医療機関の医師をかかりつけ医とする場合は、本人と家族の同意を得ている。かかりつけ医の往診は2週間に1回あり、それ以外に臨時・緊急に受診する場合は、職員が通院介助している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい内科医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在グループホームには看護職員は勤務していない。必要に応じて小規模多機能ホームに勤務する看護師と協働する場合ありうる。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合には、ホームでの生活について病院に情報提供を行い、できるだけ早期に退院できるよう、病院関係者との情報交換を行いながら、家族や病院関係者との連絡調整に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方、事業所の対応については、医療関係職員が未配置であることを踏まえ、その時々利用者や家族等の意向を確認しながら、できるだけ早期から本人や家族等、かかりつけ医等ケア関係者と話し合いにより、対応方針の共有を図っていきます。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者の場合、日々をよりよく暮らせるために、当ホームで「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医、家族と十分に話し合い、他施設を紹介する等、安心してサービスが受けられるよう支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一連の作業(買い物から後片付けまで)を利用者とともに職員が行い、利用者と職員が食事を一緒にとることにより、利用者にとって食事が楽しいものになるよう支援している。		
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の健康状態に留意しながら、利用者が望む飲み物、おやつ、好みのもの等を日常的に楽しめるよう支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	「日中活動的に過ごし、夜間安眠する」よう支援することで一日の生活リズムを整え、排泄の失敗やおむつの使用を減らすことができるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	当ホームでは利用者全員が毎日入浴することとなっている。十分な入浴時間を取り、各利用者のペースにあわせてゆっくりと入浴できる。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者に散歩、外出、家事、レクリエーション等への参加を勧め、日中はできるだけ活動的に過ごし、夜間は安眠できるよう支援している。また利用者の睡眠時間を毎日記録して、日中の運動量に反映させている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者には、それぞれのレベルに応じて、日々の家事の中で役割を分担してもらい、趣味の時間には楽しいことをしてもらい、散歩や療法・レクリエーションの時間に気晴らしをしてもらうよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望やレベルに応じて、大金を預けないことを条件に、お金を所持したり使えるようにしているが、家族は必要物品は、ホームの買い物時に立て替え払いを希望している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「日中は活動的に過ごす」という当ホームの方針に従い、朝夕の散歩、買い物、近隣の保育園児との交流会、小規模多機能ホームでの舞踊教室等々、利用者が戸外で気持ちよく過ごせる機会は多い。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者が普段行けない場所への外出を希望した場合、家族と相談のうえ、家族とともに出かけられるよう支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の電話が家族などに迷惑にならないよう配慮しながら、電話をしたり、手紙のやり取りが普通にできるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員の接遇態度は、家族にも好評である。家族や馴染みの人の来訪や宿泊は自由で、和風ユニット・洋風ユニットとも置があり、受け入れ体制も整っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を厚生労働省が作成したマニュアルにより正しく理解し、身体拘束をしないケアを実践している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家庭的な環境を維持するために日中玄関に鍵をかけていなかったが、最近、月に何度も職員の目を盗んで無断外出が続いたので、一時的に鍵をかけている。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングを中心に、台所・ユーティリティ・浴室を配置し、日中は体調が悪いとき以外はホールで過ごすことを基本とし、職員は日常業務をしながら利用者の見守りが可能である。また利用者の安全確認のため、利用者のプライバシーに配慮しながら昼夜通して見守りを行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の危険防止のため、注意の必要な物品の保管場所については、利用者の個々の状態に応じて相談しながら、管理している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	厚生労働省の「リスクマネジメントに関する取り組み指針」を職員に回覧し、当ホーム独自のマニュアルを作成している。また3ヶ月に1回、緊急時対応訓練、消防訓練等を実施し、知識を学んだり実践できるよう努めている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	3ヶ月に1回、緊急時対応訓練を実施し、利用者の急変や事故発生時に対応できるよう備えている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	3ヶ月に1回、消防訓練を実施し、消火・通報・避難訓練を実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		<p>栄養バランスについては、厚生労働省と農林水産省が作成した「食事バランスガイド」及び近畿農政局が作成した「近畿版・食事バランスガイド」を参考に、食事検討委員会で献立を検討している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	厚生労働省や兵庫県の感染対策マニュアルを利用し、職員会議の中で三ヶ月毎にマニュアル研修を繰り返し実施し、職員への周知徹底を図っている。また感染症が発生した場合は、保健所に報告し、対応策について指導を仰いでいる。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防のために、清潔・衛生を保つための管理方法を取り決め、実行している。また毎日食材を購入することにより、新鮮で安全な食材の使用に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物は木造風平屋建てで、玄関まわりはバリアフリーになっており、花や野菜の鉢を置いたりして家庭的な環境を演出し、利用者や家族等が親しみやすく、安心して出入りができるように工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋建てのホームの周囲は、植木や芝生等が配置されて落ち着いた環境である。内装、備品、手摺り等は、木製で温かみがある。リビングは吹き抜けになっており、トップライト(天窗)を多く設けているので、当ホームの名前どおり明るい雰囲気である。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和風ユニット・洋風ユニットとも3ヶ所、談笑用の木製ベンチをコーナー部に設けて、気楽なたまり場所として利用できるようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族と相談しながら、利用者の使い慣れたタンス、テーブル、テレビ、カーペット等や好みのものを自宅より持ってきてもらい、居心地よく過ごせる本人の城となるよう支援している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	吹き抜け部分のトップライトにはブラインドを設けて光の量を調節し、テレビの音量も調節している。またリビングには温湿度計を置いたり、各居室のエアコンは換気も含め職員が1日3回調節している		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	道路から玄関に至る道はなだらかな傾斜で、車椅子でも安全に通行でき、当ホームの床も全てバリアフリーで安全である。トイレは車椅子対応の構造であり、浴室には座シャワーが設置され、冬でも湯船に入らなくても身体を暖めることができる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者一人ひとりのレベルを見極めて、不安や混乱、失敗予防できるよう職員間で検討し、場合によっては家族の援助を得ながら対処している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者は外周りの芝生で毎日のように洗濯物を干したり、植木や草花に水やりをしている。また毎月、落ち葉拾い、雑草抜き等の外周りの清掃作業に、多くの利用者が楽しく参加している。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目 (洋風ユニット)		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)